

目次

(一面)

第76回人権週間特集  
街頭啓発活動・武庫地区人権問題講演会  
人権啓発リーダー研修会・各種団体別合同研修会  
(第1・2回)を開催しました。  
視点「虹色の心に」 尼崎市立武庫北小学校校長

(二面)

防災マップづくり 社協武庫支部事務局長 大原 憲二  
武庫地区の子どもの会紹介 濱田 格子  
武庫地区子ども会連絡協議会会長  
消防団武庫地区の紹介と団員募集 高井 伸一  
尼崎市消防団武庫地区副団長  
武庫しのめは、1982(昭和57)年誕生しました。 事務局



武庫地区人権啓発推進委員会  
尼崎市南武庫之荘11丁目6番15号  
尼崎市立地域総合センター南武庫之荘  
電話・FAX 06-6438-5875

第76回人権週間特集

2024(令和6)年12月4日～10日

「人権文化のいきづくまち」を目指した  
第76回人権週間に伴う様々な活動

1948(昭和23)年国連総会での世界人権宣言採択を記念して、世界人権デーが制定されました。その世界人権デーを最終日とする12月4日から10日までの人権週間には、毎年、全国各地で啓発活動が展開されています。武庫地区人権啓発推進委員会も「人権文化のいきづくまち」を目指して、啓発活動を次のとおり実施しました。

人権週間の取組み

- ◆街頭啓発活動(人権啓発チラシ・グッズの配布、パネルの展示)  
・日程 12月2日(月)  
・場所 阪急武庫之荘駅周辺  
(参加者 43人)



街頭啓発活動に先立ち、11月21日に人権啓発チラシ・グッズの袋詰め作業を行いました。作業終了後、啓発映画DVD『私と部落とハンセン病』林力99歳の遺言を鑑賞しました。九州で初めての同和教育、ハンセン病国家賠償請求訴訟に尽力した林力さんからの人権メッセージについて学びました。(参加者 31人)

◆人権啓発パネルの展示、のぼり・横断幕の掲示

- ・日程 11月27日(水)～12月11日(水)

◆場所  
パネル展示  
武庫西生涯学習プラザ、武庫東生涯学習プラザ、女性センタートレヒエ  
のぼり・横断幕の掲示  
武庫小学校 阪急武庫之荘駅周辺、西武庫公園、武庫西生涯学習プラザ、武庫東生涯学習プラザ

人権問題講演会

- ◆武庫地区人権問題講演会  
・日程 12月10日(火)  
・場所 武庫西生涯学習プラザ3階ホール

武庫地区人権啓発推進委員会

人権啓発リーダー研修会・各種団体別合同研修会を開催しました。

人権啓発リーダー研修会

日時	場所	講師	演題
2024(令和6)年 8月26日(月)	地域総合センター南武庫之荘2階 集会室	山下 真知子 さん (大手前大学現代社会学部客員教授)	【いろ】のチカラで他理解 ～地域共生社会の実現に向けて～
内容紹介	「いろ」が感情や生活環境に関係していることなどについて講義、ワークショップを通じてそれぞれの気質の人が他者とどう関わるか、など。		

各種団体別合同研修会 (第1回)

日時	場所	講師	演題
2024(令和6)年 11月28日(木)	武庫西生涯学習プラザ 1階ホール	加山 美佳 さん (認知症地域支援推進員)、 高田 六造 さん (元水堂小学校長)、 南武庫之荘中学校・教諭・佐藤先生と生徒のみなさん。	地域共生社会の実現を目指して - 安心できる社会
内容紹介	南武庫之荘中学校のトライやるウィークを動画で紹介、4人の生徒のみなさんによるじんけん作文朗読、認知症についての説明、「学校とじんけん」という演題で、自らの経験から個性や人格を認めあうことの大切さについて。		

各種団体別合同研修会 (第2回)

日時	場所	講師	演題
2025(令和7)年 1月27日(月)	地域総合センター南武庫之荘2階 集会室	第1部: 河知 秀晃 さん (公益財団法人兵庫県国際交流協会 外国人インフォメーションセンター長) 第2部: るり子 さん(尼崎市在住)	多文化共生社会の実現に向けて 第1部: 兵庫県に住む外国人の相談事例について ～ひょうご多文化共生総合相談センターの相談事例の紹介～ 第2部: 移民として扱われた体験談 ～国際結婚でオランダに住んで感じたこと、思ったこと～
内容紹介	第1部: 外国人から寄せられた相談事例の紹介。外国人労働者が不可欠な日本経済社会において、外国人との共生のため互いに尊重することの重要性。 第2部: オランダでの移民や市民化政策の実態など。		



講師に神戸学院大学人文学部教授の大西慎也さんをお迎えし、「地域共生社会の実現に向けて」戦後日本における理想の教師像の変遷について」というテーマでお話しいただきました。(参加者 67人) (事務局)

視点

「虹色の心に」

「戦後を生きただけの被爆者が、街頭で、学校の教室で、国際会議で訴え続けた。その訴えに私たち自身が慣れっこになり「現実とかけ離れている」と冷やかに見る風潮はなかったか。」日本被団協にノーベル平和賞授与が決まった翌日の新聞に掲載された記事の一部である。世界に目を向けると、今もなお国際情勢の不安定さは続き、多くの尊い命が奪われている。戦争は、人々の生命、大切な家族、日常の生活など、さまざまな

ものを奪う最大の人権侵害である。

「修学旅行で広島に行く前、私は戦争に行っていないから戦争の事をまともに考えていなかった。初めて戦争の話聞いた時、正直、怖くなった。しかし、それと同時に、戦争について深く考えさせられた。今の日本がある事、今、私の命があることにありがたさを感じた。」

以前、私が担任していたクラスの子が書いた作文である。続けて、こう書いている。

「私には好きな言葉がある。『幸せ』  
『幸せ』は、世界中にあふれている。寝ている時、笑っている時、食事をしている時、人それぞれ『幸せ』の形は違うけれど、みんなが平等に心の中に持っている。私にとっては、学校に通い、勉強したり、友達と遊んだり喧嘩したりすることも『幸せ』の一つ。心の中がそんな『幸せ』でいっぱいになった時、私の心は虹色になる。」

たとえ現実とかけ離れていたとしても、何か「きっかけ」があれば、戦争や平和について関心を持ち、真剣に考えられる小学生は市内にもおおいいる。「きっかけ」  
学校現場で担う役割は大きい。

人権が尊重されることにより、平和が守られる。そして、平和であることによって人権が守られ、「幸せ」になれる。世界中の人の心が虹色になることを願っている。

尼崎市立武庫北小学校  
校長 上村 知一郎

# 社会福祉協議会武庫支部 防災マップづくり

社会福祉協議会武庫支部では、以前作成した防災マップの更新作業に取り組みます。

この防災マップづくりでは、社会福祉連絡協議会が中心となり、地域住民(各福祉協議会長や民生児童委員、少年補導委員、保護司、老人クラブ、PTA、学生など)と関係機関(地域総合センター南武庫之荘、福祉関係団体など)、行政職員、社協職員が一緒に参加し、①座学②まち歩き③データをマップに落とし込む作業の3つを行っています。

座学では、防災に関する知識とマップ作りのポイントを学び、参加者がマップ作製できるようにイメージしてもらいます。

次に、参加者を班分けしてグループリーダー、記録係、安全確認係、チェック係の役割分担をしてから地域に出向き、前回作成したマップと比べて災害時に危険なものがないか等を確認しながらまち歩きをします。

まち歩きから帰ってきたら、参加者全員で拡大した防災マップの白地図に、まち歩きで見つけた危険個所や役立つ情報の落とし込み作業をして、各班から気づいたことや

感想を発表してもらいます。

後日、これらの情報を1枚の防災マップにまとめ、社会福祉連絡協議会長と最終確認をして業者に印刷依頼をして完成となります。

この防災マップづくりをきっかけに、災害に対する意識向上や地域住民相互の顔の見える関係づくりへと繋げていけるよう、これからも取り組んでまいります。

尼崎市社会福祉協議会  
大原 憲二



## 子ども会で元気に遊んで色々な体験を

### 武庫地区の子ども会の紹介

「武庫地区子ども会連絡協議会」は、区内6小学校の校区毎にある単組子ども会の協同体です。



校区では「ひよこ」、武庫庄小学校区では「すずらん」があり、対象は3歳児から中学生です。

活動は、年間行事として、芦屋浜でのカヌー体験(5月)、バス遠足(7月)、ラジオ体操(8月)、さつまいも掘り(10月)、お餅つき体験(1月)、アイススケート体験(3月)等があります。

またその他に、地域の農家さんのご好意によるじゃがいもや大根、玉ねぎなどの植付け・収穫体験もあり、更には単組子ども会で夏祭りやクリスマス会なども行われます。



入会については、年度当初に新規入会と継続の手続きを行っており、新規募集については、4月に各小学校さんを通じて案内チラシを配布しています。費用は、年会費千円と行事毎の参加費です。

最後に、当協議会は、尼崎市子

### 武庫地区で頑張る団体紹介

## 尼をまもる 消防団武庫地区

### いっしょに尼崎市消防団として活動してみませんか?

# 消防団員募集

## 尼を守るのはあなたの力!!

(入団資格)

- 健康で尼崎市内に居住している方
- 18歳以上45歳未満の方(特例有り)

(問い合わせ先)

尼崎市消防局企画管理課 消防団担当

(電話) 06-6481-3962

尼崎市消防団は、1962(昭和37)年に1市1団に統合され、現在59分団、団員定数1,000名を擁し、各分団に消防ポンプ自動車を配置し、常備消防と協力し災害活動にあたっています。また、地域の防火・防災リーダーとして、地域住民との連携を強め、地域に密着した防災体制づくりを推進しています。

消防団は、「自らのまちは自らで守る」という郷土愛護の精神に基づき、住民有志により組織された市町村の消防機関です。しかし、全国の消防団員数は年々減少傾向にあり、消防団員の確保は、喫緊の課題となっております。

当市においても、同じ問題を抱えており、地域密着性、即時対応力、要員動員力という特性を持った消防団は、火災はもとより、いつ起こるか

わからぬ地震をはじめとした自然災害から市民の生命・身体・財産を守るためなくてはならないものであります。

尼崎市民の皆さん、家族や親戚、ご近所、ご町内の皆さんの安全と安心を守るため、いっしょに尼崎市消防団員として活動してみませんか?

また、防災力の要である消防団を①地域を挙げて応援する機運を高める②消防団員のモチベーションの維持向上を図る③新たな団員確保に繋げることを目的とした「消防団員応援事業制度」が2016(平成28)年4月1日からスタートしました。

地域全体で社会貢献し、消防団を盛り上げ、事業所等のPRやイメージアップなどに登録をお願いします。

尼崎市消防団武庫地区  
副団長 高井 伸一



ども会連絡協議会から2年前に脱退し、地区独自に活動をしているため、尼崎市からの補助金は頂いていないので予算的には苦しい状況ですが、役員の間で、なごやかに、和気あいあいと続けておりますので、皆さんの一層のお力添えをお願いしたいと思います。

なお、武庫社協さんからは、毎年補助金を頂いており誠にありがとうございました。

武庫地区子ども会連絡協議会  
会長 濱田 格子

## 1982(昭和57)年 市民啓発紙 武庫しののめは誕生しました

### 武庫しののめ43年の歴史

1982(昭和57)年、武庫地区人権啓発推進委員会の前身である「武庫地区人権学習推進委員会」が発足しました。「武庫地区人権学習推進委員会」は人権草の根運動の素地をつくるために設立されました。

創刊号は1982(昭和57)年12月に、武庫地区人権学習推進委員会が発行しました。第2号は1983(昭和58)年3月発行、その後、年間2回から3回の発行を重ねて、43年間で106号に至りました。

(事務局)